



2学期10講①

アフリカ&太平洋分割  
西アジアの混乱

# 探検家の世界史

- タスマン(蘭) … 17C、タスマニア島・ニュージーランド・フィジー
- クック(英) … 18C、オーストラリア、ハワイ諸島、ニューファンドランド島
- リヴィングストン(英) … 19C、宣教師、中南アフリカ横断・奴隷根絶
- スタンリー(米) … 19C、コンゴ探検・レオポルド2世(白)の依頼
- ピアリー(米) … 1909年、北極点に到達
- アムンゼン(ノルウェー) … 1911年、南極点に到着
- リヒトホーフエン(独) … 19C、中国史研究・シルク=ロード
- ヘディン(スウェーデン) … 20C、中央アジア・楼蘭王国・ロプノール湖
- スタイン(英) … 20C、ハンガリー人・新疆探検・敦煌文献・インダス文明の調査

# アフリカ分割の重要視点

1. 1884年のベルリン会議を知る！
2. 2つの独立維持国家の特徴と背景
3. イギリス縦断の起点(エジプト・スーダン・南ア)の植民地化
4. 英×仏 & 日×露 → 英+仏 → 仏×独 の流れ
5. 上手くいかなすぎる…W イタリアのアフリカ進出
6. アフリカ分割は中国分割と同じ覚え方(地図)！

## §31: アフリカ分割

## A 分割の開始

①内陸部の探検 (19世紀半ば～)

① (英)・② (米)らの探検 → 列強の注目 → 侵略・分割へ

②スエズ運河の開通 (1869) … イスマイル＝パシャ (エジプト副王) とレセップス (フランス人技師)  
イギリス・フランスの進出が本格化 → インドへの航路の短縮化③ベルリン会議 (ベルリン＝コンゴ会議, 1884～85) → ベルギー×ポルトガル  
ドイツのビスマルク主催 … ベルギー王の私領として、③ の設立を承認アフリカ分割の協定  
・先占権 (先に占領した国にその地域の領有を認める)  
・実効支配 (当該地域での安全や通商活動を保証できる) の原則を確認。

④アフリカの民族運動 (バン＝アフリカニズム) … バン＝アフリカ会議

1890年: in ロンドン (植民地主義と人種差別に反対)

1919年: in パリ (アフリカ植民地の段階的な自治獲得) … デュボイス (米) の活躍

## B イギリス (アフリカ縦断政策)

[北アフリカ] 1875年: スエズ運河株買収 (首相 ④ )

1881年: ⑤ 運動 → 82年: エジプトの保護国化

81年: ⑥ 運動 → 98年: 東スーダン保護国化

- ・ムハンマド＝アフマドの指導
- ・スーダン総督 ⑦ (英) がハルツームの戦いで戦死

[南アフリカ] 1890年: ローズ (～96) がケープ植民地首相に就任

95年: “ ⑧ ” 建設 × ⑨ 人 (“アフリカーナー”) 国家

96年: クリュエーガー電報事件 (→ 英独間の関係悪化!)

99年: 南アフリカ戦争 (～1902)

(原因) ①ブール人との対立 ②金・ダイヤモンドの発見

(経過) 英植民相 ⑩ × トランスヴァール共和国大統領: クリュエーガー

(結果) 1906年: ブール人に先住民バントゥー・ズールー族への優越付与

→ のちに “アパルトヘイト” (人種隔離) 問題へと発展!

1910年: 南アフリカ連邦の成立 ( ① ・ ② ・ ③ ・ ④ )  
の4州)

1912年: 南アフリカ先住民民族会議を設立 (→ アフリカ民族会議 [ANC])

[西アフリカ] ① ⑤ 王国 (13～19世紀: 現: ナイジェリア共和国) の征服

… ポルトガルとの奴隷交易などで繁栄していた

② ゴールド＝コースト (黄金海岸) の形成

→ アシャンティ王国 (17世紀～1902年: 現: ガーナ共和国) の併合

—ブール人の国家建設—

- ① ナタール共和国 (1839～)
- ② トランスヴァール共和国 (1852～)
- ③ オレンジ自由国 (1854～)

## C フランス (アフリカ横断政策)

- [北アフリカ] 1830年: ① 遠征・征服 → 42年: フランスの直轄地 (×アブド＝アルカーディル)  
 81年: ② 保護国化 → 82年: 三国同盟の成立 (仏伊対立から)  
 1912年: ③ 保護国化 → ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世との2度の対立  
 (モロッコ事件: 1905・1911)
- [東アフリカ] 1888年: ジブチ港の建設 (in ソマリランド) } × イギリス横断政策  
 96年: マダガスカル領有
- [西アフリカ] (ギニア湾) 象牙海岸支配 ・ ④ 王国 (現: ベナン共和国) の征服  
 (ギニア) 国民的英雄 ⑤ (サモリ帝国) の抵抗 (19世紀末)  
 … 曾孫はセク＝トゥーレ (ギニア共和国初代大統領)
- [スーダン] 1898年: ⑥ 事件 … アフリカで最初の帝国主義的衝突  
 (英) キッチナー将軍 (仏) マルシャン大佐 → フランスの譲歩 (1904)  
 1904年: ⑦ の成立 … エジプト (英) とモロッコ (仏) における優越権の相互承認  
 → ⑧ 事件 (1905, 1911) へと発展!

## D ドイツ

## [ビスマルク時代]

1884～85年: ベルリン会議 (→ ベルギー王国によるコンゴ侵入: ベルギー王の私領化に列強の対立激化)  
 → カメルーン・トーゴランド・南西アフリカ (ナミビア)・東アフリカ (タンザニア) を獲得

## [ヴィルヘルム2世時代]

- ① 第1次 ⑨ 事件 (1905年: in タンジール)  
 仏に対して門戸開放を要求! → アルヘシラス国際会議 (1906) … イギリスによるフランス支援でドイツは譲歩
- ② 第2次 ⑩ 事件 (1911年: in アガディール)  
 独砲艦パンター号がアガディールに入港 → イギリスはフランスを公然と支持を表明 … 軍事衝突の危機  
 → モロッコ・コンゴ協定 (仏領コンゴの一部を独に譲歩することで仏のモロッコ保護国化を承認)

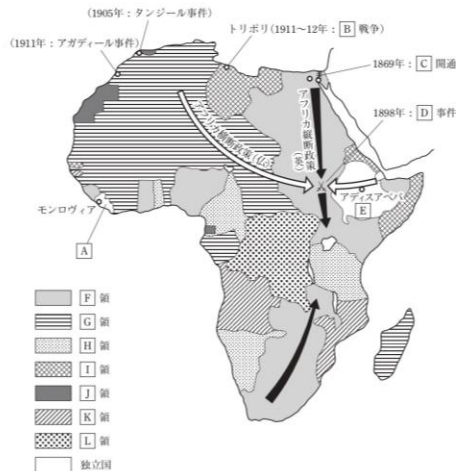
## E イタリア

- 1885年: エリトリア併合  
 89年: 南ソマリランド併合 (×ソマリア原住民指導者サイイド＝ムハンマド)  
 95年: エチオピア侵入 … ⑪ の戦い (96) で敗退 (×エチオピア帝国皇帝: メネリク2世)  
 1911年: イタリア＝トルコ戦争 (→ ⑫ 事件の混乱)  
 12年: ローザンヌ条約 (12) … ⑬ 領有

## F その他

- ① ベルギー : 1885年: コンゴ自由国樹立 … 国王 ⑭ の私有地 1905年: 正式併合
- ② ポルトガル: ギニア＝ビサウ (西アフリカ)  
 アンゴラ (西南アフリカ) } 16世紀以後から領有  
 モザンビーク (東南アフリカ)
- ③ 独立国 : ⑮ 帝国 → アクスム王国より  
 : ⑯ 共和国 (1847年建国: アメリカ植民協会により解放された奴隷の居住地, 都: ⑰ )

## ■ 列強のアフリカ分割



# 太平洋分割の視点

1. オセアニア2カ国の先住民と植民地化
2. ハワイの歴史は、クックの発見～米の併合まで
3. 3つの〈ネシア〉の位置関係を確認！
4. ミクロネシアは、西→米 & 独→日 どこ？ いつ？
5. メラネシアは、「ニューギニア島」の3国分割
6. ポリネシアは、島々と列強(英仏)の組み合わせ(地図)

## §32：太平洋（オセアニア）分割

### ①太平洋の探検

- ・ **①** (蘭, 17世紀) … オーストラリア・タスマニア・ニュージーランド・フィジー諸島を発見
- ・ **②** (英, 18世紀) … オーストラリア・ニュージーランド探検 → 英領化, のちにハワイに到着

### ②オーストラリア

1788年からイギリスの流刑植民地 … 19世紀に牧羊と金鉱の採掘で発展 ※白豪主義 (~ 1973年)

→ 移民の増加, 先住民 **③** を圧迫 → **④** 年: 自治領化 (オーストラリア連邦)

### ③ニュージーランド

イギリスの植民地化 (1840) → 先住民 **⑤** 人の抵抗を抑圧 → **⑥** 年: 自治領化

### ④ハワイ

18世紀末: カメハメハ1世により, カメハメハ朝ハワイ王国成立 1810年: 全島統一

1893年: アメリカ人砂糖業者のクーデタ (共和制革命) → リリウオカラニ女王の退位

1898年: 米大統領 **⑦** により併合

1959年: 第50番目のアメリカ州に昇格

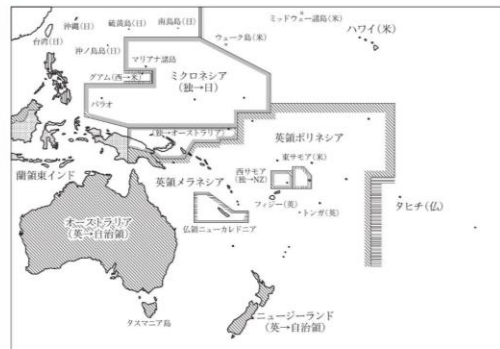
### ⑤フィリピン&グアム

アメリカ=スペイン戦争の結果, スペイン領からアメリカ領へ (1898)

### ⑥南太平洋諸島 … 英独米仏蘭などにより分割

- ・ ボルネオ島 … オランダ・イギリスで分割
- ・ ニューギニア島 … オランダ・イギリス・ドイツで分割
- ・ メラネシア (ソロモン, フィジー, トンガ諸島など) … イギリス領
- ・ ビスマルク諸島, カロリン諸島, マーシャル諸島, マリアナ諸島, バラオ諸島など (ミクロネシア) … ドイツ領
- ・ ニューカレドニア, タヒチなど … フランス領 ※WW I 後に日本領に
- ・ サモア … アメリカ・ドイツで分割

■太平洋（オセアニア）分割



# アラブ民族運動に活躍した人々

The Hussein-McMahon Correspondence

1915/ 16

Sayyid Hussein bin Ali,  
Sharif of Mecca



フセイン＝  
ハーシム

Sir Henry McMahon,  
British High Commissioner  
in Egypt



英アラブ高等弁務官  
マクマホン



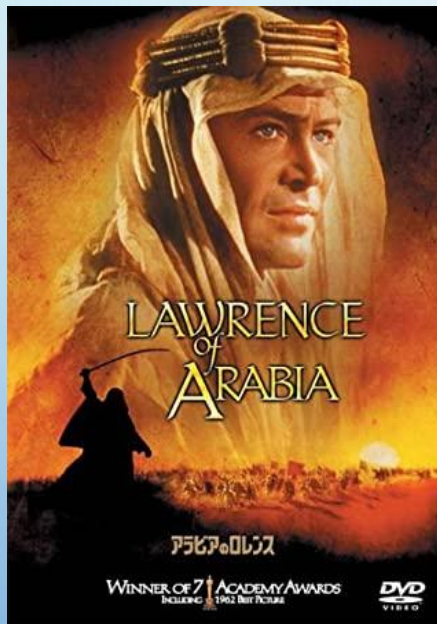
トマス＝エドワード＝  
ロレンス



ファイサル＝  
ハーシム

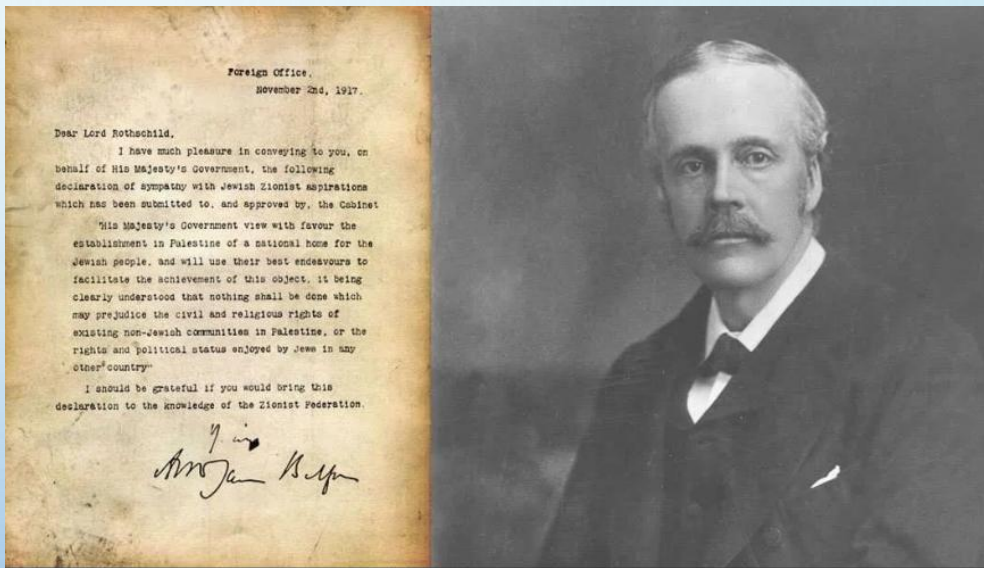
映画

# 「アラビアのロレンス」



美談？ 悲劇？ 滑稽？

# バルフォア宣言(1917)



英外相バルフォア → 貴族院議員ロスチャイルド卿 → アメリカ・シオニスト協会



怒りの鉄拳

OR

モラルの欠如

## §33: 第一次世界大戦後のアジア・アフリカ

## A エジプト (1882年: 英保護国化, 1914年: 正式保護国化)

1922年: エジプト王国成立 (ファード1世) = 立憲王国, 条件付独立

\*ワタン党 (ウラービー → ムスタファ = カームル)

(条件) 英が防衛権, 運河駐屯権, スーダンの共同行政権を持つ

×24年: ① 党 (by サアド = ザダール: 18年に結成) が政権政党になる

29年: ムスリム同胞団 (by ハサン = アルバンナー, 過激派) 結成! … ナショナリズム

1936年: エジプト = イギリス同盟条約 (~51) … 完全独立

(地位) スーダン・運河 (スエズ運河地帯駐屯地権) は共同管理, 国内の軍事占領終了 (防衛権廃止)

37年: 国王ファールーク1世即位 (~52年: ② → 王政廃止・エジプト共和国へ)

## B パレスティナにおける英の二枚舌外交

1915年: ③ 協定 (アラブ人の独立約束)

16年: ④ 協定 (英仏露の分領統治)

17年: ⑤ 宣言 (ユダヤ人の独立約束, 「シオニズム」の利用)

## C アラビア半島とパレスティナの情勢

1916年: ヒジャーズ王国 (~24) 成立 (国王 ⑥) + イギリス

18年: ダマスカス占領 (by 子ファイサル + “アラビアのロレンス”)

20年: セーヴル条約 (パレスティナはイギリスの委任統治下に)

26年: ヒジャーズ = ネジド王国 (~32) 成立 (国王 ⑦) + イギリス

32年: ⑧ 王国成立 (都: リヤド・メッカ) … イギリスからの技術援助で近代的イスラーム化

## D 西アジア諸国の動向 (委任統治より)

★1920年: サン・レモ会議 (中東分領, 委任統治領に) → ⑨ 条約 (トルコの敗戦条約)

① ⑩ 王国 (英) ———— 1932年: 完全独立 (国王: ファイサル (フセインの子 ⑩))

② ⑪ 王国 (英) ———— 1946年: 完全独立 (国王: アブドゥッラー (フセインの子 ⑩))

③ ⑫ (英) ———— 1947年: 国連へ委託 (→ 47年: パレスティナ分領案可決)

④ ⑬ (仏) ———— 1920年: 独立宣言 (×) 46年: 完全独立

⑤ ⑭ (仏) ———— 1920年: シリアより分離 43年: 完全独立

★イラン (→ 35年より “ベルシア” より改称) 一戦では中立, 一部戦場 \*ガーજェール朝

1925年: ⑮ 朝の建国 (軍人 ⑯) → ロシア革命でロシア軍は撤退

… 第二次世界大戦では中立 → 独り戦に巻き込まれる → 退位!

41年: ⑰ 即位 … 英ソの協力要請される!

★イエメン王国 (北イエメン) の独立 (1918年) … オスマン帝国より

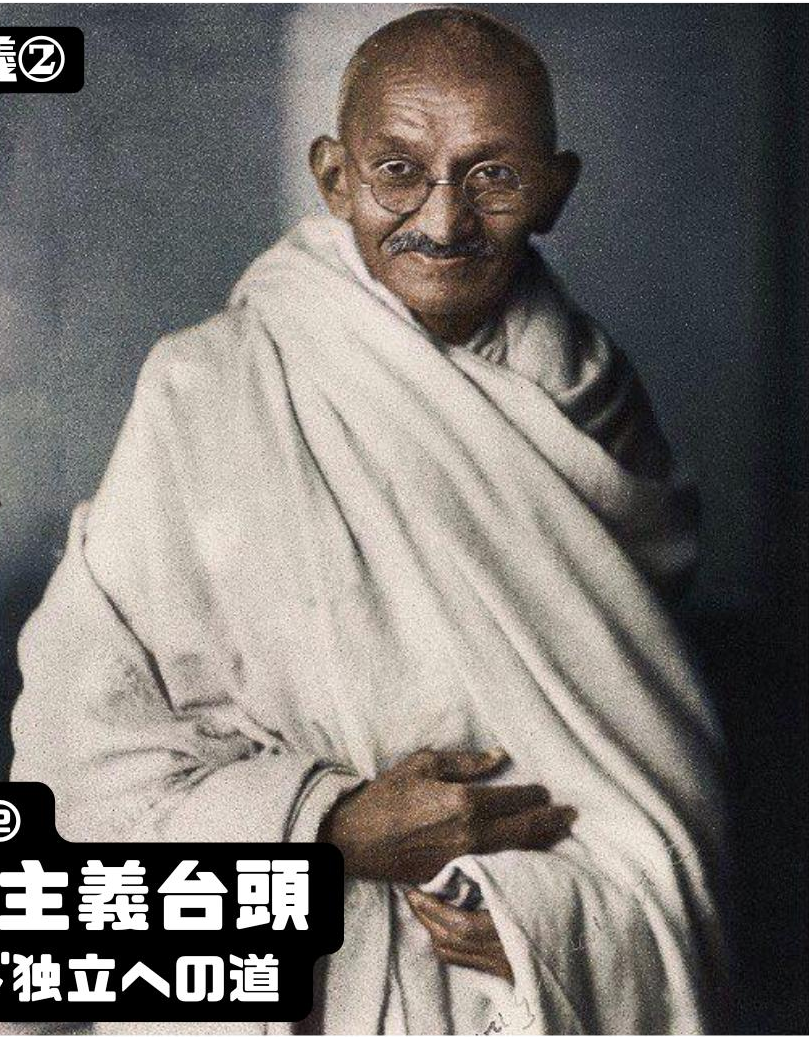
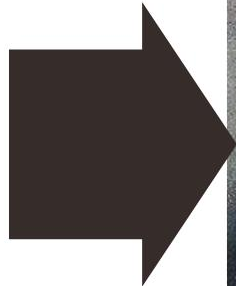
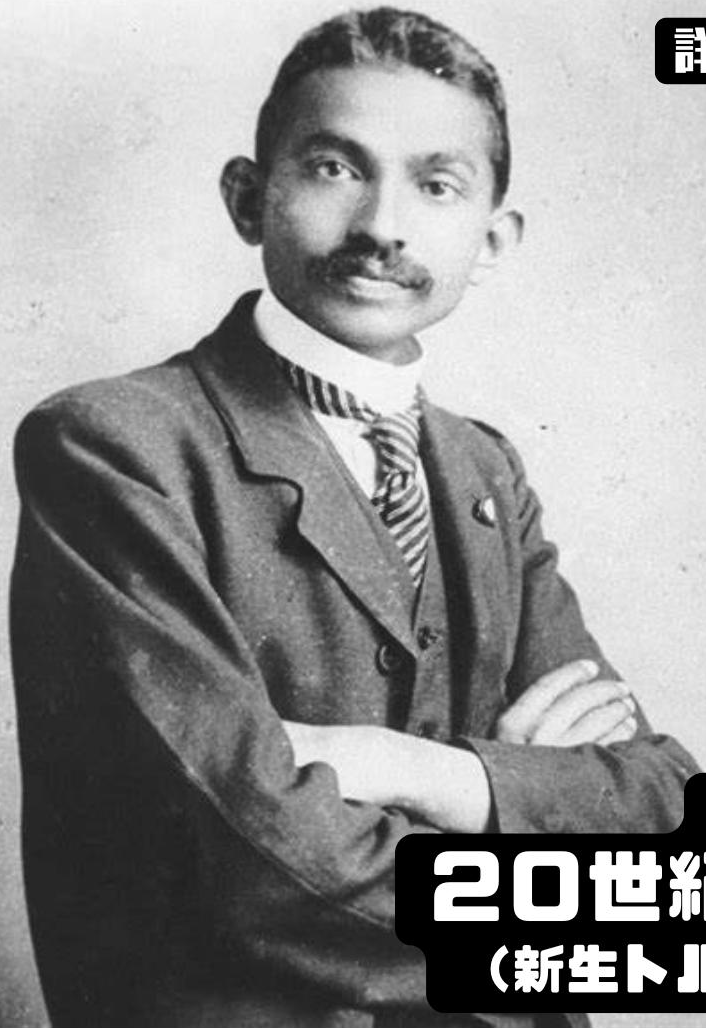
★アフガニスタン王国の独立 (1919) … ラワルビンディー条約 (+英)

## ■ 第一次世界大戦後の西アジア



■ 英領・イギリス委任統治領  
 ■ 仏領・フランス委任統治領  
 ■ イタリア領

詳説世界史講義②  
~2025年~

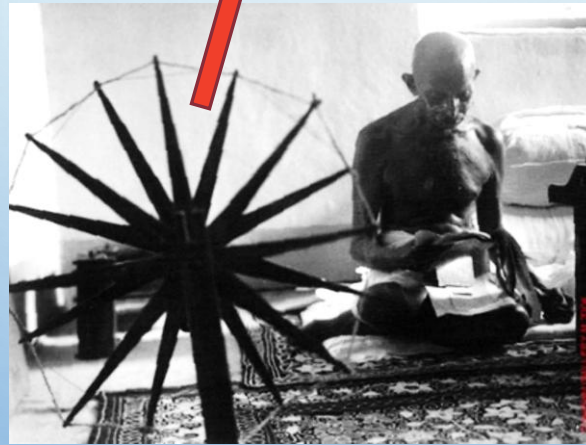
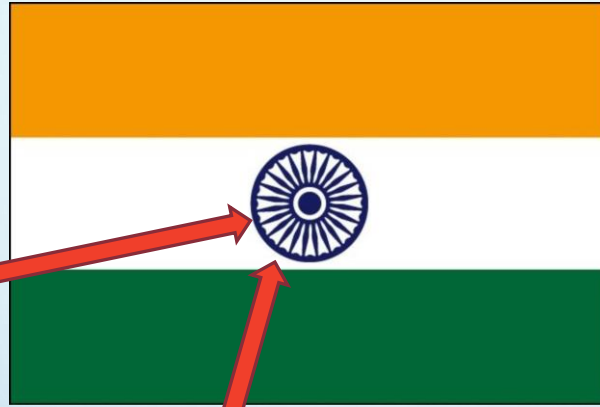


2学期10講②

**20世紀の民族主義台頭**  
(新生トルコ&インド"独立への道



法輪



チャルカー  
(糸紡ぎ機)

## インド独立に 活躍した指導者

- 1869年 ガンディー
- 1876年 ジンナー
- 1889年 ネルー
- 1891年 アンベードカル
- 1897年 ボース

# WW I 後の西アジアに登場した指導者比較



トルコ  
共和国

ケマル=パシャ

1923年

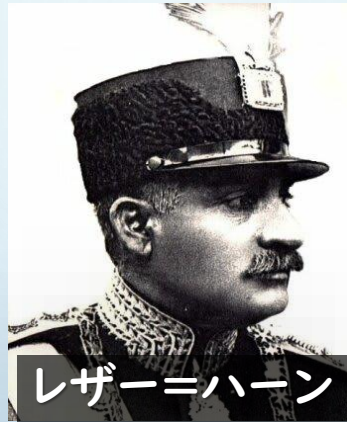
共和政

政教分離

トルコ民族主義

酒飲み・豚食う

成立  
政体  
政教  
民族  
スゴイ



パフレ  
ヴィー朝  
イラン

レザー=ハーン

1925年

王政

政教分離

イラン民族主義

息子の出来悪い



サウジ  
アラビア  
王国

イブン=サウード

1932年

王政

政教一致

アラブ民族主義

妻19人・子56人

## §33：第一次世界大戦後のアジア・アフリカ（その2）

### ㊦オスマン帝国からトルコ共和国へ＝トルコ革命（1919～23）

1920年：セーヴル条約（全土の1/3になる [首都周辺・トラキア・① を失う]

×トルコ大国民議会〈by ムスタファ＝ケマル〉⇒21年：サカリア川の戦い（×侵入 ② 軍との戦い）

22年：③ 制廃止（⇒メフメト6世亡命，オスマン帝国の滅亡）

23年：④ 条約（イズミル回復，独立承認，不平等条約廃止）

⇒トルコ共和国樹立 都：⑤ 大統領：ケマル＝パシャ（“⑥”：34年より）

38年：第2代イスマト＝イノニュ大統領の就任（大戦では中立政策）

#### 《西欧化政策》

①トルコ共和国憲法（24：一院制 [=共和人民党]・政教分離） ②⑦ 制廃止（24）

③脱イスラーム化（トルコ帽・イスラーム暦廃止，神秘主義の禁止）…政教分離

④女性解放（一夫多妻・チャドルの廃止，女性参政権 [34]

⑤文字改革（28）＝⑧ 文字⇒⑨ 文字採用 ⑥国際連盟への加入（33）

\*クルド人（2000万人）・アルメニア人虐殺問題

#### 〈国民・独立の父〉

※同じ時期に生まれていた！

①孫文 1866年～

②ガンディー 1869年～

③レーニン 1870年～

④ケマル 1881年～

### ㊿ビルマの独立運動

- 19 党 (1930) … 即時完全独立を要求 → 20 が書記長に (1940)
- サヤ=サンの大農民反乱 (1930)
- ビルマ統治法 (1937) … 21 から完全分離, 準自治領に

### ㊿タイ

- 22 (チャクリ) 朝の専制, 大戦後の国民生活の不安定  
→ 23 (1932) … 憲法発布, 議会開設, ピブン首相就任 (人民党) … 国王ラーマ7世  
国号をシャムからタイに改称 (1939)

### ①インドネシアの独立運動

- 24 (1920) … アジア最初の共産党
- インドネシア国民党 (1927) … 25 (インドネシア初代大統領) 指導

### ②インドシナの民族運動

- ベトナム青年革命同志会 (1925), ベトナム国民党 (1927)。
- インドシナ共産党 (1930) … 26 の指導

### ㊿フィリピン

- 1916年: ジョーンズ法 … フィリピンに広範な自治を付与 (米大統領: 27)
- 1934年: フィリピン独立法 … フィリピンに自治付与, 独立の約束 (米大統領: 28)
- 1935年: フィリピン独立準備政府の樹立

# モHANDAS=カラムチャンド=ガンディー

マハトマ=ガンディー  
(偉大なる魂)

- 1869年 ~ 1948年 1月30日
- 中流カーストの出身
- 13歳で結婚 ⇒ ロンドン留学? ... 弁護士資格取得
- 南アフリカへ(24歳) ... インド人移民差別の解決のため
- トルストイ農園 & パスポート焼打事件
- インドへ帰国(36歳) ... 1915年 → WW I インド兵の徴兵
- ガンディーポリシー : 同じインド人 & 1つのインド & 反英
- 非暴力不服従 (サティアグラハ = 真理把握)

# アマリットサール集会弾圧事件(1919・4)



## ⑥インド帝国から連邦制そして分離独立へ

(ヒンドゥー) 国民会議派 + (イスラーム) 全インド=ムスリム連盟 (ヒラーファト運動)

1915年: インド防衛法 (×16年: ラクナウ協定でヒンドゥーとイスラームが共闘)

17年: モンタギュー (インド相) 宣言 (戦争協力 ←⇒ 戦後自治の約束)

19年: 10 法の発布 (= 令状なしの逮捕・裁判なしの投獄)

⇒ 4月: アムリットサル事件 <by ダイヤール英将軍> 死傷者1200名ほど

5月: 第1次非暴力・不服従 (← “11”) … ボイコット・ハルタルなど

12月: インド統治法 <モンタギュー・チェルムズフォード改革> の発布 … 州に広範な自治付与

22年: インド人の暴徒化により、ガンディーは運動停止 24年: ヒンドゥー・イスラームの対立再激化

25年: インド共産党成立 27年: 憲政改革調査委員会の設立 (白人のみが選ばれる)

28年: インド独立連盟結成 <by 若手指導者: ネルー・チャンドラ=ボース>

29年: ラホール大会 <議長ネルー, “12 (完全なる独立)” の決議>

30年: 「13」 (第2次非暴力・不服従) × イギリス政府による製塩禁止令の発布

⇒ 14 の開催 (in ロンドン) … ガンディーは2回目のみ出席, しかし不調

35年: 15 の発布 (インド連邦へ, 外交と軍事のみはイギリス, ビルマの分離)

42年: “クイット=インディア” 提唱 by ガンディー

47年: インド総督マウントバッテンの裁定 by 16 党内閣

⇒ インド連邦 <17>, パキスタン自治領 <18> の分離独立!

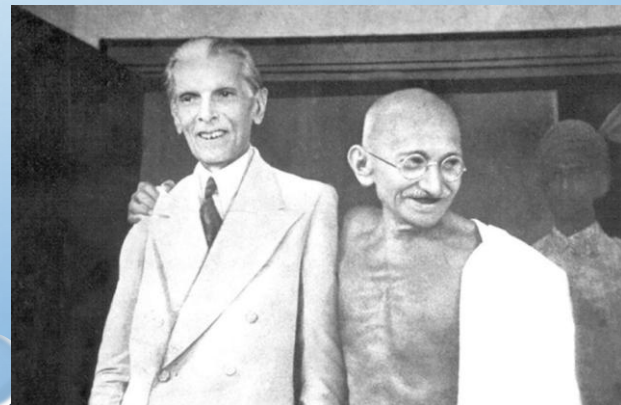
## ☆ゆきおのつぶやき☆

「ガンディーが残した君たちへのメッセージ」

1. 重要なのは行為そのものであって、結果ではない。行為が実を結ぶかどうかは、自分の力でどうなるものではなく、生きているうちにわかるとも限らない。だが、正しいと信ずることを行いなさい。結果がどう出るにせよ、何もしなければ何の結果もないのだ。
2. 強さは肉体的な力から来るのではない。それは不屈の意志から生まれる。
3. 幸福とは、考えること、言うこと、することが調和している状態である。
4. 世界に変革を求めるならば、自分自身を変えることだ。
5. もし、私にユーモアがなければ、これほど長く苦しい戦いには耐えられなかったでしょう。
6. 我々をとりまく全ての物事は常に変化している。変化の源泉は生きる力にある。それは不変であり、結果を生んではまた創造する。
7. 善良さには知識が伴っていなければならない。単なる善良さはいして役に立たぬ。人は、精神的な勇氣と人格に伴った優れた識別力を備えていなければならない。
8. 人間性への信頼を失ってはならない。人間性とは大海のようなものである。ほんの少し汚れても、海全体が汚れることはない。
9. 報酬を求めない奉仕は、他人を幸福にするのみならず、我々自身をも幸福にする。
10. 私は失望するいつも思う。歴史を見れば、真実と愛は常に勝利を収めた。暴君や残忍な為政者もいた。一時的に彼らは無敵にさえ見える。だが、結局は亡びている。それを使う。
11. 「目には目を」という考え方は、世界中の目をつぶってしまうことになる。
12. 私は、苦い経験を通じて、最高の教訓をひとつ学んだ。怒りをコントロールすることだ。蓄えられた熱がエネルギーに変わるように、抑制された怒りを、世界を動かす力に変えることができる。
13. 平和への道はない。平和こそが道なのだ。
14. 私の生き様が、私のメッセージである。

# ネルー と ジンナー と ガンディー

## 塩の行進(1930)



**ガンディー**  
**(1868~1948)**



**アンベードカル**  
**(1891~1956)**



**カースト制度についての是非**

# ガンディー暗殺の地（1948.1.30）



# ガンディー暗殺者(1948.1.30)



過激ヒन्दウー教徒  
ゴードセ



ラージ=ガート(茶毘に付した地)

